

案内

青少年育成に 皆さんの善意を

(公財)大垣市青少年育成財団は、大垣市明るい青少年都市市民会議への支援や、青少年活動を行う団体への助成などを行っています。

その主な財源は、企業や個人の皆さんからの寄附金です。温かいご厚志をよろしくお願ひします。

詳しくは、同財団のHPをご覧ください。事務局(社会教育スポーツ課内、☎47-8063)へ。

中小企業退職金共済制度

中小企業退職金共済(中退共)制度は、中小企業の事業主が、従業員の退職金を計画的に準備できる国の退職金制度です。

国からの有利な掛金助成や、税法上の優遇も受けられ手数料もかかりません。

また、家族従業員やパートタイマーも加入できます(一部対象外あり)。

詳しくは、中小企業退職金共済事業本部HPをご覧ください。同本部(☎03-6907-1234)へ。



同本部HP

緑の募金にご協力 ありがとうございました

令和6年「緑の募金」に、各自治会をはじめ、個人・企業・団体など多くの皆さんから、520万43円もの募金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。皆さんの善意は、森林整備や緑化の推進などの財源として役立てられます。

詳しくは、公園みどり課(☎47-8409)へ。

花や木への散水に ご協力を

夏は、厳しい日差しや暑さのため、植物が弱りやすい季節です。晴れが続いた日や日差しの強い日には、道路や公園に植えられている花や木にも散水のご協力をお願いします。

詳しくは、公園みどり課(☎47-8419)へ。

違法な森林開発は 「森林の不適正事案110番」へ

県は、違法な森林開発の早期発見のため、毎年8月を「森林の不適正事案解消の強化月間」とし、市町村と協力して重点的にパトロールを行います。

森林で不審な伐採、採掘、建築物などを発見した場合は、「森林の不適正事案110番」(西濃農林事務所林業課内、☎73-1111 内線393・389)へ。

全国版救急受診アプリ「Q助(きゅーすけ)」 救急車の適正利用をお願いします

近年、救急件数は増加の一途をたどっており、このような状況が続けば、本当に救急車の必要な人への対応が遅れ、救命率に影響が出る可能性があります。

消防庁では、急な病気などで救急車を呼ぶかどうか迷った際に、緊急度に応じた必要な対応を支援し、利用できる医療機関と受診手段の情報を提供する、全国版救急受診アプリ「Q助(きゅーすけ)」のスマートフォン版およびWeb版を提供しています。ぜひご活用ください。

使用方法やダウンロードなど詳しくは、消防庁HPをご確認ください。



消防庁HP

市民病院「診療呼び出し通知サービス」 スマホひとつで簡単便利！お気軽にご利用ください

市民病院は、患者さんの利便性向上を目的に、スマートフォンなどで診察室の呼出状況を確認できるサービスを行っています。

来院当日に発行される「外来パスポートの二次元コード」を読み取ることで、診察呼出状況をご自身のスマートフォンなどで確認できます。個人情報に関わる内容は表示されませんので、ユーザー名やパスワードなど不要で、誰もが簡単にご利用できます。

また、「メールでの通知登録」を設定すると、診察前日のお知らせメールや、診察順が1~4人待ちになった場合の診療呼び出しメールなど、安心便利な通知を受け取ることができます。

詳しくは、同病院医事課(☎81-3341 内線6370・6371)へ。



市民病院・豊田院長の 健康コラム No.4 夏の危険・熱中症 決して人ごとではありません！

皆さん、こんにちは！市民病院院長の豊田秀徳です。健康コラム第4回をお届けします。

今年も暑い夏がやってきました。過去一番といわれた昨年にも増して暑い夏になるという話もあります。これからその暑い夏を乗り切らなければなりません。そこで毎年大きな問題となるのが熱中症。今回は熱中症のお話です。



熱中症は屋外、屋内を問わず高温多湿の場所で過ごしている時や急に気温が上がった場合に起きる病気です。体に熱がたまって体温調節が効かなくなり、いろいろな臓器が十分に働かなくなって、場合によっては命を落とす危険があります。急激に進行するため、日頃元気な人でも急に容体が悪くなり危険な状態になることもあります。市民病院には夏になると熱中症で容体の悪くなった人がたくさん搬送されてきます。

右の表に示すような人は、熱中症になる危険が高いのですが、熱中症は誰にでも起こりうる病気です。若い人や持病のない人でも危険はあり「私は大丈夫」という人はいないのです。むしろ、そう思っている人は用心をしないのでより危険かもしれません。

熱中症の始まりには、めまい、大量の発汗、筋肉痛、頭痛、気分不快、吐き気、倦怠感などの症状があります。夏にこのよう

な症状があったら熱中症の可能性を疑ってください。ただ、目立った症状がなく、一気に状態が悪くなる場合もありますので要注意です。熱中症は「暑く」は感じないのです。熱中症になったお年寄りなどに、後で話を聞くと「暑くなかった」とよく言われます。これが問題で「暑くない」と言って夏でも冷房を入れない人、厚着をしている人は危険です。それは暑さに強いのではなく、感じていないだけなのです。

熱中症の予防のためにはまず、よく水分を摂ることです。喉が渇いてからでは遅過ぎです。その前に水分を補給してください。また、必要に応じて塩分も補給しましょう。そして暑さを避けましょう。暑さは打ち勝つものではなく、気づいて避けるものです。なるべく冷房を使って屋内で過ごす、屋外では日陰を歩く、風通しの良い服装にするなど工夫してください。暑い間は涼しいところで体を楽にしているのがいいのです。体を動かすことはいいことですが、この時期の畑仕事などは朝早く、夕方遅くの涼しい時間に行いましょう。

<熱中症になりやすい人>

- ・高齢者
- ・小児
- ・脱水傾向にある人
- ・肥満の人
- ・普段から厚着傾向の人
- ・普段から運動をしていない人
- ・暑さに不慣れな人
- ・下痢などで体調を崩している人
- ・食事を抜いている人

コラムで取り
上げてほしい話
題などは、入力
フォームへ



入力フォーム